

# 子どもの成長と自然体験



次代を担う子どもたちの健やかな成長は、私たち大人の責務であり、また希望でもあります。

少子化や都市化、情報化がより一層進んでいく中で、子どもたちを取り巻く環境は変化し続け、地域の大人との交流や自然とのふれあいも少なくなっています。一方で、近年では教育学や発達心理学など様々な分野の研究から、自然体験をはじめとした様々な体験が、社会性の習得など子どもの健全な成長に好影響を与えることが明らかになりつつあります。

荒川区は平成 27 年度から子どもの自然体験の充実に取り組んできました。荒川区自治総合研究所では、そうした取り組みの意義を改めて確認し、関連施策をより効果的・効率的に行っていくため、平成 29 年 3 月に『自然体験の有効性と荒川区における取り組みの現状』を公刊しました。このパンフレットは、その概要をまとめたものです。詳細は、研究所ホームページ (<http://rilac.or.jp/>) 等でご覧いただけます。

## 自然体験の有効性



「子どもの成長にとって、自然体験は大切」

多くの人が漠然とそう考えている自然体験ですが、国内外の研究結果から、子どもが自然の中で過ごすことの様々な効果が科学的にも実証されてきています<sup>※1</sup>。

子どもの自己規律機能(注意力や忍耐力等)向上、注意欠陥障害(ADD)に **GOOD!**

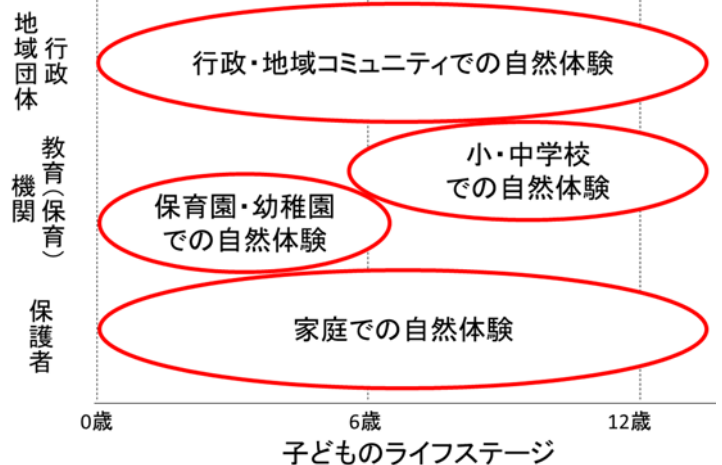
子どものストレスの軽減に **GOOD!**

ぜん息や近視の抑制等の健康の保持・増進に **GOOD!**

子どもの遊びを多様化させ、運動能力の発達に **GOOD!**

<sup>※1</sup> それぞれの先行研究や学説の詳細は本書をご覧ください

## 子どもの自然体験の領域



子どもたちは主に、家庭、保育園・幼稚園、小・中学校、行政・地域コミュニティという4つの領域で自然体験を行っていると考えられます。各領域は子どもの年齢(ライフステージ)とそれに関わる大人(保護者や学校の先生、地域団体の指導者等)によって分類されています。

## 家庭での自然体験

家庭での子どもの自然体験は、以前に比べ、範囲等が狭まる傾向にあります。国立青少年教育振興機構<sup>※2</sup>の調査の結果、大多数の保護者が、現在の子どもたちは自分が子どもの頃と比べ、自然体験をはじめとした体験活動の機会が少なくなっていると感じていることが分かりました。

また、同調査の分析の結果、保護者がどれくらい自然体験を行ってきたかと、子どもがどれくらい自然体験を行っているかには関連がみられ、保護者の自然体験の経験の差が、子どもの自然体験の機会の差を作り出すという構図が浮かび上がってきました。

※2 青少年に対し体験活動等の機会や場を提供するとともに、指導者の養成及び資質向上、青少年教育に関する調査及び研究等を行う独立行政法人です。

## 保育園・幼稚園での自然体験

区立保育園・幼稚園での自然体験の現状について調査すると、各園とも自然体験を重視しており、園庭や公園等で土や水、葉っぱに触れるといった活動が盛んに行われていることが分かりました。



また、区では、どのような保育園、幼稚園、こども園等においても、子どもたちが等しく高い就学前教育を受けられるよう、共通して体験させたい内容として『就学前教育プログラム』を策定しています。こうしたプログラムを見ても、自然体験に非常に力を入れていることが分かります。

自然体験の目的・ねらいとしては、季節に対する感受性、生命の大切さ、五感、自然の美しさ、豊かな心といったことが挙げられていて、主に**感性**を養うことを目的としていることが特徴です。

## 小・中学校での自然体験

各校の特徴的な取り組みである「学校パワーアップ事業」による自然体験の現状について調査すると、栽培活動といった校内で行うものから、大自然の中で行うものまで、様々な体験が行われていることが分かりました。



また、小学校・中学校の自然体験の目的・ねらいの中には、**感性**の醸成に関するものもさることながら、例えば自然環境に対する意識の向上といったように、**認知**や**価値観**の形成に係るものが多く含まれています。さらに、理科・環境教育などに関連したプログラムも多く、自然に関する知識、理解、分析、総合などの**認知**に重点が移っていることが分かります。そうした体験によって、子どもの**価値観**も醸成されていくとすることができます。

## 行政・地域コミュニティでの自然体験

区役所を含む地域コミュニティでは、様々な団体が多岐にわたる自然体験プログラムを運営しています。それらの特徴は、多様性に富んでいる点です。

年齢を特定しているプログラムもありますが、乳幼児から小学生、中学生、高校生まで参加できる事業もあります。幅広い年齢層と一緒に活動することで、普段は接点の無い子どもとも交流でき、学校等でのプログラムでは得られない体験ができます。年長の子どもの面倒を見るといった慣行のある事業もあります。

また、親子で参加する事業が多いことも特徴です。保護者が一緒に参加することで、保護者自身の自然体験への関心も高まっていき、それがより豊かな子どもの自然体験につながっていくと考えられます。



▲ボーイスカウト  
(荒川ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会)



▲まちふれんずキャンプ  
(町屋ふれあい館)



▲奥多摩キャンプ  
(荒川区少年団指導者連絡会)



▲ホタルを育てる活動  
(荒川区ホタルを育てる会)



▲あらかわ冒険遊び場  
(あらかわ冒険遊び場の会)



▲浜っ子ガーデナーウィッシュ  
(石浜ふれあい館)

## 各領域の役割・補完関係

子どもの自然体験を進めていく上で、家庭の果たす役割は非常に大きいです。しかしながら家庭での自然体験の機会は、各家庭によっても差が生じてしまいます。

こうした家庭による子どもの自然体験の差を補う役割を担うのが、家庭以外の領域であり、中でも保育園や幼稚園を含めた公的な教育部門での自然体験は、家庭での自然体験の機会の多少にかかわらず、平等に提供するという点で大変重要です。

また一方で、小学校等では校内での栽培活動など身近な自然体験が主要なプログラムとなっていますが、行政・地域コミュニティでの自然体験は、区外で実施されるものも多く、加えて異年齢の交流や遊びの要素などもあります。こうした多様さという点で、行政・地域コミュニティでの自然体験は大切な役割を担っています。

このように、各領域は互いに補い合う関係にあり、それぞれの特徴を踏まえた上で、自然体験を推進していく必要があると言えます。



# 子どもの自然体験の推進に向けた提言

子どもの健全な成長のために、私たち大人はどのように子どもの自然体験を進めていけば良いでしょうか。自然体験の質を高め、さらに充実していく上で留意すべき点や、求められる要素について次のとおり提言します。

下図左は、本パンフレットの中面で紹介した、子どもの自然体験の領域に関わる大人（保護者、地域、保育園・幼稚園、小学校・中学校の指導者や先生）それぞれに向けた提言であり、下図右は、各領域のみならず、すべての領域に向けた提言となっています。

特に、区においては、それぞれの領域に対する支援を行うとともに、荒川区における子どもの自然体験を率先して推進していくことが求められます。また、各領域に関わる大人が互いに連携を深めていくことも重要な点です。

領域別提言		総括的提言
地域 コミュニティ 行政	<b>地域に向けて</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どものライフステージを意識したプログラムを組み立てよう</li></ul> <b>区に向けて</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域団体等への活動支援</li><li>・地域団体等が実施する事業への参加者に対する支援</li></ul>	<b>日常の自然体験</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・身近な自然を見出し、自然体験の機会を創出しよう</li><li>・地域資源を活用しよう</li></ul> <b>区に向けて</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもが土や緑に触れる機会の充実</li><li>・拠点としてのゆいの森やエコセンターの活用</li><li>・三河島菜等の地域資源の活用</li></ul>
	<b>保育園・幼稚園</b> <ul style="list-style-type: none"><li>各園に向けて<ul style="list-style-type: none"><li>・幼少期の自然体験の重要性を改めて認識しよう</li><li>・就学前教育プログラムに沿った自然体験をさらに充実して実施しよう</li></ul></li></ul>	<b>小学校・中学校</b> <ul style="list-style-type: none"><li>各校に向けて<ul style="list-style-type: none"><li>・様々な機会を捉えて自然体験をしよう</li><li>・専門家、コミュニティ、家庭との連携を強化しよう</li><li>・校舎内外の自然環境を豊かにしよう</li></ul></li></ul>
家庭	<b>保護者に向けて</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもに自然体験をさせよう</li><li>・学校等の自然体験に積極的に関わろう</li><li>・親子で自然体験をしよう</li></ul> <b>区に向けて</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・保護者への啓発</li><li>・保護者の自然体験への参加促進</li><li>・家庭における自然体験の実態調査の実施</li></ul>	<b>地域への愛着</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域の自然を活用した自然体験を行うことで、郷土愛につなげよう</li></ul> <b>担い手の育成</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・これまで培ってきたノウハウを共有し継承していこう</li></ul> <b>区に向けて</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・指導者の養成に向けた支援</li></ul>



〔発行・お問い合わせ〕公益財団法人荒川区自治総合研究所

住所 〒116-0002 東京都荒川区荒川2丁目11番1号（荒川区役所北庁舎3階）

電話番号 03-3802-4861

ホームページ <http://rilac.or.jp/>

FAX番号 03-3802-2592

メールアドレス [info@rilac.or.jp](mailto:info@rilac.or.jp)